島嶼学概論Ⅰ　レポート

農学研究科 生物生産学専攻 修士１年 大場 賢
学籍番号　3413810041

今回、鹿児島県三島村の硫黄島で宿泊実習を行った。硫黄島は鹿児島県南端から約 40km に位置する活火山である硫黄岳などによって形成されている。特徴としては硫黄岳からの亜硫酸ガスや酸性土壌という独特の地形である。また離島であるため産業基盤などが独自の体系となっている。

そこで今回、離島という環境の中で島を良い方向で活性化させることについて考えみた。島を発展させるうえで大切となっていくのは、自然に負担をかけないことである。そのため自然環境を壊さない産業である観光が大切になってくる。また観光は、大きな経済波及効果を生み、地域経済の発展と交流に伴う活力を創出し、国際交流による国際相互理解を促進させる。そのような点で硫黄島の観光を推進していくことは重要である。観光を推進していく中で今回、農業の面からの推進について考えてみた。現在、硫黄島の特産品としてやぶ椿、大名竹などが挙げられている。しかし椿に関しては島内では加工がおこなわれておらず完全には島の特産品になり切れていないと考えられる。そのためこれらを生かした特産品を作るため、島内で加工できるような体系および硫黄島の栽培環境に適した農産物を新たに見つけることが重要になってくる。島内での加工施設などは現実的に考えて、行うことができそうである。しかし新たな農産物を見つけることは亜硫酸ガス、酸性土壌といった独特の環境も影響しているため難しい状況になっている。島を回ってみたところ農業を行える土地も十分にあるため亜硫酸ガス、酸性土壌など条件を満たすことができる農産物を見つけることが重要である。酸性土壌を好む植物としては、茶、ブルーベリーなどが挙げられる。中でも硫黄島では現在、椿が島内に多数植えられていることから、同じツバキ科ツバキ属である茶は硫黄島での生育に適していのではないかと考えられる。

次に島の活性化を行うため重要となってくるのは島の教育である。島の教育は少人数教育であり複式学級を実施している。このメリットとしては、生徒自身が自分で学習する習慣をつけることができる。現在、硫黄島では「潮風留学制度」があり島外からの子供を募集している。この制度によって島の魅力を全国に知ってもらえる機会が増えることが望まれる。しかしながら島の教育の問題点は、島内には高校がないので島内の子供は中学を卒業後、本島の高校へ進学することである。そのようにして島内の子供の人口が減ってしまう。そのため高校卒業または大学卒業後に島に帰ってきたいと思うような教育を島内で行う必要があるのである。そこで現在、島で行われている「子供を育てるまちづくりカリキュラム」をもっと推進していく必要がある。第一に，子どもたちがそ

のまちの良さを知るような仕組みづくり、第二に子どもたちが地域から認められ，そして子どもたちも地域の一員として自覚を持ち，感謝するような仕組み。教師が，自分の学級で子どもたちをほめるのは当然である。それに加えて，まち全体として子どもをほめる仕組みを作ることなどである。また、ふるさとで育った子どもたちは，やがて村から出て都会で働き，都会で暮らす。しかし，やがて定年を迎えて，自分の育った村に帰ってこようと思うものもいる。そのような人たちを増やすためには，都会に出ている 35 年の間，ふるさとと都会とをつなぐ仕組みも大切である。このような仕組みを定着させる必要がある。しかし現在島の子供の数は４年生以下の子供が０歳の子供一人だけであるということを現地の方にお聞きした。このような現状では、島の教育を行う前に子供の数が減ってしまう。そのため前述したように硫黄島の観光がここでも重要になってくる。硫黄島の観光を推進していくことで､U ターンだけでなく I ターンで島に定住する人を増やしていく必要がある。

現在硫黄島では三島村開発総合センター、ジャンベスクール、東温泉、俊寛堂、新硫黄島、クジャク、硫黄岳などの多くの観光スポットもあり、毎年開催されているヨットレース｢みしまカップ｣など自然を満喫でき存分に楽しめることができる。そのなかでも、ジャンベはとても印象的だった。昔から、硫黄島固有のものではないが、いまは硫黄島の文化といっても過言でないほど根づき島をアピールするうえで非常に適しているのではないかと感じた。島にはジャンベスクールがあり、６か月のジャンベ留学の制度も存在する。このようなことを生かして島に来る人や定住者を増やしていく必要がある。

今回、この講義を受講するまでは三島村の存在は知らなかった。鹿児島では島と言えば奄美大島と屋久島といったイメージが強い。そのため三島村や十島村などの離島は、そのイメージに隠れてしまう。もっと三島村、硫黄島のことを世の中の人に知ってもらいたい、そして訪れてほしい。そのためにも、このような講義や国際島嶼研究センターはとても重要である。島国と呼ばれる日本において、離島の自然、文化はすばらしいと今回の宿泊実習を通して思いました。